

# 京鹿子

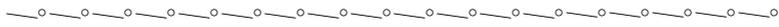
京都府京都市東山区  
西ノ京一丁目一丁目一丁目  
西ノ京一丁目一丁目一丁目  
西ノ京一丁目一丁目一丁目

10月号

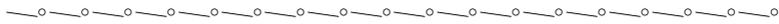
豊 田 都 峰  
漣響集 その十四

夕 焼 や 埴 輪 切 目 の 奥 も ま た  
落 し 文 開 け ば 大 凶 む か し よ り  
枇 杷 熟 れ て 父 母 よ り 長 寿 の 日 々 な り し  
炎 天 や か げ お く こ と は ゆ る さ れ ず  
登 城 し て た ち ま ち 灼 熱 の 矢 風 受 く  
一 灯 を か か げ 銀 河 を 渡 り ゆ く



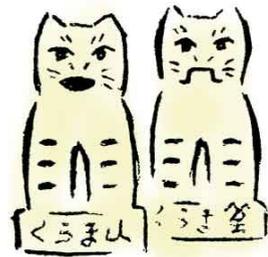


銀河なるしづくこだまの山泊り  
ひとり来てランプもひくくにぎり酒  
芋嵐おむすび山は晴れすがた  
楠公の砦あととて芋嵐  
水鶏鳴く水辺は常夜灯ばかり  
朱なるも水にとけゆく走馬灯  
蝉しぐれ明日の分とは無駄なこと  
方違せしゆゑ日陰たまはりぬ



小春道  
丸山佳子

二百十日お国不明の小花ふえ  
蝉しぐれ山彦君はいまどこに  
鳩にまで甘く見られて日焼する  
立板に水の月日や秋彼岸  
銘菓さげ申分ない道小春



## 秀華採集

時の日や砂に吞まれし国のあり

奥田筆子

季語の設定がよい。今地球上に砂漠が増えている。けっして過去を忘れてはいけない。そのきっかけが鮮やかに示されている。

梅長者夜星に捲くる農曆

杉山はつ江

田の神と濡れて生涯田を植ゑる

林のり代

共に働く立場に立ち、さらに思い入れが窺える点を評価したい。前句は、梅は三日三晩干すという、その作業の原点に迫っている。後句は、田植時、神は山から降りてきて田の神となるという原点を踏まえ、生涯共に濡れるという発想はよい。

鈴鹿 仁

案山子立つ

片雲にのりて円画くみづすまし

案山子立ついま正念場の中をり

初あきつ円融と言ふ水あそび

落つ角に一筋の風みづいろに

いちまいの雲追ふ如し秋の蝶

---

近 詠

---

和田 照海

吳軍港

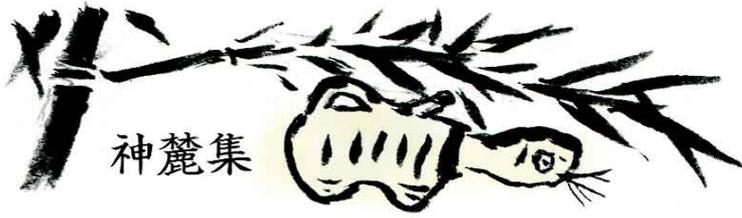
まづ卯波とらへ潜望鏡始動

黒南風やはにかんでゐるくぢら艦

敬礼のおもかげの艦梅雨兆す

水兵のコンパス脚やソーダ水

白南風や母港はいまも「大和」待つ



神麓集

珍宝帳 林 日圓

寧樂の秋正倉院展北倉に  
天高し北倉中倉南倉と  
鯛雲聖武遺愛の品光る  
秋晴れの東大仏に珍宝帳  
秋深む光明皇后大仏に

桜桃忌 北村 香朗

太宰忌や上水の水ほとぼしる  
無頼派の墓銘に埋むさくらんぼ  
父の日に届くうな重三夫婦  
花柄のすくと伸びたる布袋草  
白と共に毬ととのひぬ濃紫陽花

大夕立 藤岡 紫水

己が首持て余しゐる大向日葵  
引き汐に貝の縞透く夏至夕べ  
溪流に山影倒れ夏至暮るる  
大夕立大地目指してためらはず  
単衣着て肩の細さに老いを知る

松田 都青

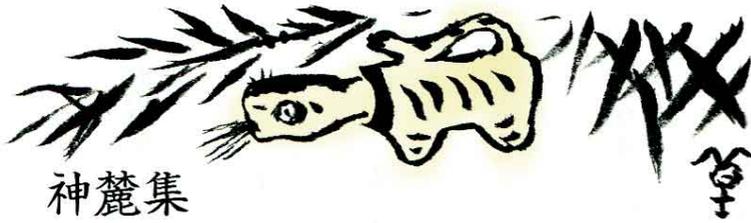
賑やかな時間の外で梅雨が降る  
冷奴くたくた生きて無失点  
満潮を待つて六月動き出す  
父の日や父選ぶなら佐分利信

服部 郁史

来る日より過ぎし日がよし月仰ぐ  
相聞歌袖の中まで十三夜  
放しやる猛犬体内夏原野  
流れゆく余日の尾にある秋薊  
鯖飯に酔の馴れ若狭路晴れ渡る

船越 美喜

松蟬に旅の昼餉の箸とめて  
すつきりと話がつきし心太  
杜若色を深むる細き雨  
サルビアの赤を辿りて玄関へ  
六月の雨美しき窓に読む



神麓集

忘れ草

丹生をだまき  
忘れ草忘れることで救はるる  
標高二千滴りを掬み小休止  
ぷるると震へてゼリー運ばるる  
新牛蒡カリリコリリとつまみ食ひ  
御佛飯干し飯となり下げらるる

山田をがたま

産卵の鯉跳ぬる池畔三白草  
夏野菜の高値の話題候異変  
馳け抜けし雷雨のあとの玉霰  
夏バテに微熱の続き試歩頓挫  
酷暑なか救ひはアイスノン枕

白地着て

北川 孝子

二の腕の風うひうひし青すだれ  
へそ石の水うすうすと白地着て  
曾孫悠人ぐんぐん育つ雲の峰  
どうしても掴めぬ眞意夕立雲  
かぶと虫音なき夜風生ぐさし

凌霄花

柴田 朱美

凌霄や空のねばりをひき寄せる  
火遊びの日暮れあやふき凌霄花  
誘惑にかたむいてゆく凌霄花  
混濁の意識のなかの凌霄花  
凌霄花いつか自分に酔つてをり

変声期

伊藤 希眸

変声期過ぎ夏帽にま白き歯  
成田屋へ掛け声八月歌舞伎かな  
声明は杜の方から秋立てり  
大音声挙げて神輿の秋が来る  
声紋の終生おなじ萩の月

秋深し

竹貫 示虹

生駒嶺を白き雲ゆく稲架襖  
秋深し鐵路は川に沿ひ曲る  
いふことをきかぬとしよりにごりざけ  
偲ぶとは人の思ひの乱れ菊  
草の絮捨てし故郷を戀しがる

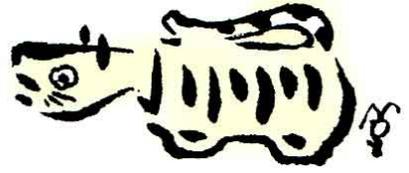


神麓集

水母 丸井巴水  
 膝まろく坐し金婚の緑かげ  
 立ち止まる蟻の思案や大仏殿  
 寺よりもなほなほ古き百日紅  
 紫といふか茄子はなすび色  
 内海に敵なし水母鳴くもよし

小堀寛  
 ががんぼは江る天才魔法瓶  
 白絣トンボ眼鏡の美少年  
 烏十三羽激論す薄暑かな  
 蛸江る蛸の腸抜く妻であり  
 男ならゴール一本雲の峰





# 京鹿子集

## 豊田都峰選

時の日や砂に吞まれし国のあり

外堀はどうか埋めてビール干す

蜂の巣の子育日誌殺氣あり

眉落としくちなは助演女優賞

梅長者夜星に捲くる農曆

傘寿てふ夢の裂け目や明易し

花棟社務所被ひて四方に香を

里山は絵具無用や大繁り

田の神と濡れて生涯田を植ゑる

ヘルメット脱ぐ夕焼のはみ出して

京都 奥田 筆子

杉山はつ江

明石 林 のり代

白靴や一生数値を伴侶とす

凌霄咲きはげしき寺の庭となる

大西日旅客機見送る作業人

夏の朝せせらぎ聞こゆ京の庭

芝手入れ子供支へる人多し

友の夏子に招かれて米国へ

若き娘等カメラへVの字藤の棚

武家門の大樹の中の花見鳥

郭公の朝の挨拶太極拳

幾度の転居に耐えし庭の薔薇

アリソナ 伊吹 之博

さいたま 神田 惣介